

2024年2月27日

博士論文審査報告書

札幌市立大学大学院
看護学研究科長 様

看護学研究科博士論文審査会

審査員（主査）	菊地 ひろみ
審査員（副査）	卯野木 健
審査員（副査）	松浦 和代

学位申請者氏名	岩崎 美輝	学籍番号	2175001
申請学位	博士	専門分野	看護学
論文題目	ISPCN Child Abuse Screening Tool-Parent version3 (ICAST-P Ver.3)の日本語版の開発 Development of the Japanese version of the ISPCN Child Abuse Screening Tool-Parent version3 (ICAST-P ver.3)		
審査日程	2024年1月23日（火）本審査 2024年2月8日（木）公開発表会		
審査結果	<input checked="" type="checkbox"/> 合格 <input type="checkbox"/> 不合格		

審査結果の要旨

本研究は、国際的に活用されている ISPCN Child Abuse Screening Tool-Parent version3(ICAST-P Ver.3) 日本語版を作成し、信頼性と妥当性を検証することを目的とした研究である。

2023年11月1日（水）に実施した博士論文予備審査を経て、2024年1月23日（火）に博士論文審査（本審査）を実施した。2月8日（木）に実施した公開発表会におけるプレゼンテーションおよび質疑応答より、学位申請者が十分な説明能力を有し、論文内容を十分に把握していることを確認した。

審査所見は以下の通りである。

本研究は、子どもに対する親のしつけの行動から虐待の兆候を発見するための、本邦における新たなスクリーニングツールの開発であり、新規性が高く看護学に対する貢献が期待される。また、深刻さを増している子ども虐待の予防に向けた新たなツールとして活用可能性が高く臨床的意義が高い。

研究プロセスは、第1研究において日本語版（案）の作成、第2研究において認知デブリーフィングおよび専門家会議による認知的妥当性の確認、第3研究において信頼性と妥当性の検証を行っており、それぞれのプロセスを適切に実施している。

第3研究において、本ツールの適合度指標が算出されなかった結果に対して論理的に考察し、本邦におけるしつけの特徴について多角的な視点から考察している。

COVID-19 流行下において調査方法を駆使して3歳以下の子どもの親を対象とした調査を実施し、信頼性と妥当性を検証した点は特筆すべきである。

以上、本論文が博士論文審査の視点および審査基準を満たしており、審査過程を通して、学位申請者が論文内容を十分に把握していることを確認した。

本審査会は、本論文が博士（看護学）に相応しい内容であると判断し、博士論文として「合格」と判定する。